

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年6月1日

事業所名 ドーユーラボでだこ

チェック項目		はい	どちらとも えない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4			・今のままで、適切であると思う。 ・机の配置を考えるといい感じにバラけて座っているのいいと思う ・その時々々の活動で、椅子や机を移動し、柔軟に対応している。	・コロナも収束しつつあり、事業所内でも児童の活動が活発になりつつあるため、安全かつ特性にあった支援のスペースを設けていきたい。
	2 職員の配置数は適切である	2	2		・適切であると思う。 ・送迎がスムーズにできる日もあれば、待たせてしまうこともあるので、あと一人職員ほしいなど感じることもある。 ・突発的な欠員の場合の調整に余裕がないので、児童対応も出来るフリーの職員がいてほしい。	法令上の配置には問題ないが、個々の特性にあった支援を行うことで職員の支援が多岐に広がってしまうため、安心して支援が可能のように工夫や人員の増員についても経営側と協議して考えていきたい
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	3		1	・段差を取り除けるといい。 ・活動室から、手洗い場へバリアフリーがないので改善したい。	必要な児童が利用する場合には簡易スロープ等の対応をしていきたい
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4			・緊急に気になる点は、その場で相談などをしつつ、その後会議などで常に改善している。 ・送迎後など、気になっている事を話したりしやすい雰囲気を作っているが、しっかりと話し合う時間はないので、15分でも、皆んなが、参加できる時間がほしい。	引き続き、職員と同じ目線や現場の声がすぐに把握できるように情報共有の場をもっと多く作れるようにしていきたい。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	2	2		・アンケートを職員にも共有して意向等を確認している	保護者の意向等を反映させることが難しい場面もあるが、元にした支援の改善をしていけるようにしていきたい。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	2	2		・ホームページの下部なのでわかりにくい	ホームページにて公開しているが、掲載場所については今後検討していきたい。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3		1	外部の人の出入りは多いが、評価までは特にならない	可能な限り、外部フィードバックを得られる環境を整えていきたい
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4			外部研修への参加を行っており、支援に活かしている。	特に県・自治体主催の研修への積極的な参加や、自ら参加したい研修へも参加を促している。職員の支援の質や視点、バリエーションが増えるような研修を行っていきたい。
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4			・新しい業務支援ツールを導入。	引き続き、保護者や児童のニーズに即した計画を立てていきます。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3		1	・新しい業務支援ツールを導入	・利用時のアセスメント用紙や特性のメモなども今後アップデートしていきます。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	4			・職員でよく話し合いができています。 ・話し合いをしながら、目的を決めてやっている活動チームもあるが、話し合いができない活動チームもあるので、つめていきたい。	・集団活動でのスキルアップに力を入れていますが、今後も楽しく参加できるプログラムをチームで立案していきます。

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4			・職員で活動内容を話し合い、振り返りを行っている。 ・流行り、季節などを取り入れながら、常にタイムリーな活動プログラムを目指している。	・今後も児童がいろいろな気づきを持てるような工夫を行なっていきます。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	3	1		・長期休暇にしかできない、実験などもっと取り組んでいきたい。	コロナも収束してきているため、活動の幅が広げられるような工夫を行ってまいります。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	4			・集団活動に参加できていない児童に個別で支援ができるよう配慮している	・個別と集団の組み合わせをもっと工夫して作成してまいります。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4			・朝、午後など、集まる時間がある。 ・開始前に気をつける点など認識を合わせている	・誰かがやるのではなく、それぞれが適時、サポートし合えるようにしていきます。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4			・職員間で気がついたことを積極的に話し合っている。 ・送迎後に、その日気になったことを話し合うことがある。	・支援で気になる児童がいる場合はその場で職員からヒアリングしてフィードバックに努めています。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4			・支援が一緒にくたにならないよう、個別支援の改善を話し合っている。	・日々の活動や行動への対応だけでなく、もう少し支援に沿った記録を心がけていきます。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	4				・職員にも共有しリアルタイムな支援の変化に対応できるようにしていきます。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	4				今後も同じ目的や視点を持つために、基本的な姿勢や活動のあり方など定期的にガイドラインの認識を合わせることを行ってきたい。
	関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4			
21		学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	4			・事前に時間などを確認し、調整を行っている。	・保護者、学校ともに協力的で適切に運行しているが、連絡確認漏れが無いように気をつけたい。
22		医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	4				現在受け入れを実施していないが体制としては可能である
23		就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	2	2			今後必要な児童がいれば、相互理解のための会議を開いていく予定です
24		学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	2	2			今後必要な児童がいれば、相互理解のための連携会議は開いていく予定です。
25		児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4				多角的な視点を持つために、必要な時は連携ができる体制である
26		放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	3	1		・児童館での交流は、たまにあるので長期休みなどを使って利用して交流したい ・児童館も積極的に利用している。	今後は必要な交流や運用であるため、どのような地域資源との関わりが持てるか検討していきたいです。
27		(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している			4		参加実績はないが、自立支援協議会を理解し、活用していきたいです。
28		日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4			・送迎時やLINEの活用などで情報共有し、こまめにやり取りするようにしている。	日頃から個別の相談は多く、児童の変化についてはもっと積極的に心身の状況を得る必要があるため、情報交換を密にしていきたいです。
29		保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレントトレーニング等の支援を行っている	2	2			個別の児童への支援については方法など共有しているが、職員からも要望あり。専門的なペアトレは行っていないので情報を集め、可能な限り支援や実施、職員の育成をしていきたい。

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4			契約時には必ず行っており、適宜質問にも回答を行っている	引き続き丁寧に説明していきたい。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4			・保護者への声かけを全職員で意識している	今後も送迎時など含め、可能な限り保護者とは何気ない会話なども行えるように意識して、細やかな支援につなげていきます。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	2			様々な共通の悩みをお聞きしているので、コロナ禍後はシェアできるような会を開催していきたいです。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4				今後も保護者が話しやすい、伝えやすい雰囲気や環境を作るを意識していきます。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4			・月に1回、お便りを配信している。	わかりやすく、家庭で支援できる方法についても周知していきたい
	35	個人情報に十分注意している	4			・HPやSNSには、顔や実名を出さないようにしている。	・職員が辞めた後も漏らさないような雇用契約を行なっている
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	3	1			・職員からの話しかけなど話しやすい雰囲気は心がけている
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	1	1		地域の事業者(学童や就労)との関わりは増えてきているが住民となると、現在は児童館での交流が主。考えていきたい。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3		1		利用日数が少ない利用者や防犯マニュアルなどまだ十分には周知できていないので、理解していただくための周知を行っていきます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4				訓練は定期的実施。その様子をもっと公開して安心して利用してもらえようとしています。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4			虐待防止の研修を適時行っている。外部の講義にも参加している。	虐待防止委員会を通して、今後も発見や報告のフローを組織的に運用していきます。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	2	2			まだ対象となる児童はいないが、虐待防止研修の中でも取り上げ、職員間での認識を揃えていきます。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	1		保護者と連携して行っている。	医師の指示書等あれば、対応する体制は整えている。統一した対応ができるようさらに職員の認識を揃えていきます。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4			事故や気になったことがあれば報告や記録に残してもらっている	日々起きている情報をもっとスムーズに共有できるようにして、定期的に事案を共有するなど、安全に配慮した支援ができるようにしていきたい。